

☆2/1「愛知県地域医療構想推進委員会」開催される
 コロナ禍のどさくさに紛れて、愛知県内「公立公的病院等再編・統合再検証名指し病院」の3病院追加が明らかにされる！《9病院から**12病院**へ！》

厚生連稲沢厚生病院・稲沢市民病院・常滑市民病院

病院名	設置主体	病床内訳 (2017年度)						住所	構想区域
		病床数	高度	急性期	回復期	慢性期	非稼働		
稲沢厚生病院	愛知厚生連	249	0	153	46	50	0	稲沢市	尾張西部
稲沢市民病院	稲沢市	320	0	228	46	0	46	稲沢市	尾張西部
常滑市民病院	常滑市	265	0	179	86	0	0	常滑市	知多半島

1 昨年秋 (2019年9月末) に、厚労省は、全国の公立・公的等医療機関の再編・合理化再検証対象施設として全国の424公立・公的病院の名指し指定を行いました。その後、2020年1月にはさらに見直した結果として全国7病院の指定解除と20病の追加指定を行い、440病院あまりとしました。(追加病院名は、風評被害等の混乱を避けるとして名前の公表はされず、該当病院への通知が密に行われたようです。)

こうした状況の中で、昨年1月以降は、新型コロナウイルス感染対応で、名指しを受けた医療機関も含めて公立・公的等医療機関が主要なコロナ感染受け入れ病床を担い、当初は、「再編見直しの期限が2020年3月末、及び再編統合計画は2020年9月までに具体化」とされていましたが、

令和2年3月4日及び令和2年8月31日付けで、厚生労働省医政局長より、再検証等の期限について通知を发出。

・具体的対応方針の再検証等の期限について (3月4日付け)

「2019年度中とされた見直しの期限に関しては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から政府として一定期間はイベント等について中止、延期等の対応を要請していること等と歩調を合わせつつ、厚生労働省において改めて整理の上、通知することとする。」

・具体的対応方針の再検証等の期限について (8月31日付け)

「再検証等の期限を含め、地域医療構想に関する取組の進め方について、「経済財政運営と改革の基本方針2020」、社会保障審議会医療部会における議論の状況や地方自治体の意見等を踏まえ、厚生労働省において改めて整理の上、お示しすることとする。」

と、実質的な計画の具体化の延期、棚上げが通知されています。しかし、その一方で、「地域医療構想」の着実な実施について、再度「経済財政諮問会議」等で確認され、2020年9月以降には、「地域医療構想」の具体化作業部会等も動き出しています。

こうした中、愛知県の「地域医療構想推進委員会」が2月1日に開催され、その会議の資料により、

令和2年12月25日付けで、厚生労働省医政局医療計画課長より、再検証要請対象医療機関の追加や民間医療機関の分析を含め、内容を確定した旨の通知を发出。

(本県では、当初、9医療機関とされた再検証要請対象医療機関が、12医療機関に増加。)

という情報が明らかにされました。

さらに、新たな3病院を含めた「再検証要請対象医療機関」12病院全ての「再検証協議状況」が報告され、新たな3病院は「今回、追加となった3医療機関については、今後、各地域の地域医療構想推進委員会で、協議予定。」と報告されました。

つまり、新たな追加3病院には、個別に追加指定が通知され、「再検証内容」の具体化が進められていたという事です。(12病院の個別再検証協議の具体的内容は下記表を参照)

「稲沢厚生病院」と「稲沢市民病院」では、すでに事務局レベルで連携協議が行われているということです。

「常滑市民病院」は、以前から検討が進められている「半田市民病院」との経営統合・独立行政法人化における、役割分担が一層進められようとしています！

2 再検証要請対象医療機関一覧と協議状況

本県の再検証要請対象医療機関は、下表のとおり12医療機関である。

<参考 県内12病院における再検証の検討状況>

(令和3年2月1日現在)

	構想区域	医療機関名	協議状況
1	名古屋・尾張中部	中日病院	・急性期病床42床を、回復期病床に転換
2	名古屋・尾張中部	国立病院機構 東名古屋病院	・2018年に408床から330床に削減したことをもって、既に対応済であることを地域の関係者で確認 ・神経難病、重症心身障害児者、結核等の患者の受け皿としての病院の特性を確認
3	名古屋・尾張中部	ブラザー記念病院	・2018年に急性期病床30床を廃止済であることを地域の関係者で確認
4	海部	津島市民病院	・病院全体で440床を352床にダウンサイジング
5	海部	あま市民病院	・休棟45床を、回復期病床として再開
6	尾張西部	一宮市立 木曾川市民病院	・急性期病床90床を82床にダウンサイジングし回復期病床に転換
7	尾張北部	医療療育総合センター 中央病院	・2018年に急性期病床110床から89床に削減したことをもって、既に対応済であることを地域の関係者で確認 ・障害者医療に特化している特性を確認
8	西三河 北部	みよし市民病院	・急性期病床68床を、急性期病床34床及び回復期病床34床に転換
9	西三河 南部西	碧南市民病院	・一定数以上の救急車受入実績を有する5病院(安城更生病院、刈谷豊田総合病院、碧南市民病院、西尾市民病院、八千代病院)で連携協定を締結 ・今後、急性期病床64床のダウンサイジングを行う計画について、地域医療構想推進委員会において協議予定
追加	尾張西部	厚生連 稲沢厚生病院	・ <u>両病院の連携のあり方について、現在事務局レベルで協議中。</u>
追加	尾張西部	稲沢市民病院	・今後、病院間の連携を含め、地域医療構想推進委員会で協議予定
追加	知多半島	常滑市民病院	・ <u>「半田市立半田病院・常滑市民病院統合会議」において、経営統合の形態を地方独立行政法人とすることが決定。</u> ・今後、診療科の分担等に関して継続して検討を行い、統合会議の検討結果を地域医療構想推進委員会で確認予定

※ 今回、追加となった3医療機関については、今後、各地域の地域医療構想推進委員会で、協議予定。